

階展示室

一部が吹き抜けになっているこの空間の壁や床には、何千枚もの小さな円形の白いタイルが貼られている。この展示は、無限に広がるタイルの実用性と芸術性の可能性を示すものである。

展示品の多くは、もともと住宅や商業ビルに使われていたものである。このような日常的に使われていたものを展示することにより、日本の生活の中でタイルが果たしてきた機能的役割に光を当てている。また、来館者はトイレや看板、洗面台などの一般的なものについて再考し、それらが持つ機能とは別に存在する造形美や工芸技術の美しさを見て学ぶことができる。

このコレクションには、銭湯から回収されたカラフルな絵柄のタイルも含まれている。これらの作品は、タイルと浴場文化とのつながりを示すだけでなく、心動かすような歴史的場面や美しい風景、縁起の良い文化的なモチーフなどが描かれており、100 年以上にわたる日本の文化的価値観や美意識、思考様式を知ることができる。

また、本展のために、天窓から張られたタイル状の針金の蜘蛛の巣、竹の形をした石器のタイルで作られた円錐形の塔など、大規模な作品が制作された。この円錐形は、底部の手で鑄造されたタイルから、上部の機械で作られた吹き付けタイルまで、タイル製造技術の進化を示していて、目を引くものである。反対側の壁には、俳優の原田大二郎（1944-）が 1999 年に笠原で初めて開催された秋祭りのために制作した、笠原町を描いたモザイク壁画がある。